

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	健康診査事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	健康に関する正しい知識の普及及び生活習慣病の発症を予防し、生涯にわたり健康的な生活習慣を獲得できるよう動機づけを行うことを目的とする。
(事業概要等)	<p>①16歳以上の市民及び生活保護受給者に対する健康診査。40歳以上の市民に対する肝炎ウイルス検診(生涯1回限り)及び骨粗しょう症検診。40歳から70歳の5歳刻みと75歳以上の生活保護世帯の市民を対象とした成人歯科健診。</p> <p>②在宅訪問歯科健診については、65歳以上75歳未満の通院が不可能な市民のうち、健診を希望する者はケアマネジャー等から申請し、自宅へ歯科医師が訪問し健診を実施する。健診項目は、全身状態・機能所見・口腔清掃状況・口腔内診査・保健指導。</p> <p>③40歳以上を対象とした胃がんリスク検査(生涯1回限り)を実施する。</p>

【事業費】

項目/年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	7,802	7,397	7,364	8,847	
うち市負担分(千円)	6,258	5,253	5,253	6,746	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
健康診査	人	495	456	459	520
成人歯科健診	人	92	105	132	225
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
健(検)診受診により、自らの健康状態を把握する機会や健康行動の動機付けを行なう機会となっており、ヘルスリテラシーの向上に努めることができた。但し、健康診査受診者数は、前年度と比較しほぼ横ばいで推移しており、成人歯科健診受診者数は令和3年度より増加傾向にあるが目標値には届いていない。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	歯と口の健康週慣に合わせ、広報紙で歯と口の健康についての情報発信と、歯科健診の受診啓発を行った。
------------	--------------------------------------------------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	歯の健康は、さまざまな病気を引き起こしたり悪化させる原因となるため、成人歯科健診の受診者数増加に向けた周知と健康行動への普及啓発の取組が課題。
-----------------	-------------------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) 自らの健康状態を把握することは、生涯に渡って健康的な生活習慣を獲得するうえで必須となるため、各種健(検)診を継続し、市民のヘルスリテラシーを高め未病予防に努める。
改革・改善策等の具体的内容	R5年度4/1より、「泉大津市健康づくり推進条例」に基づき、未病予防対策事業を展開し、イベントなどあらゆる機会において未病状態への気づきを促し、ヘルスリテラシーを高めることにより健診受診者数が増加できるように取り組む。また、成人歯科健診においては、府の健活マイレージ「アスマイル」に市独自ポイントの付与を導入し、市民が楽しみながら健康づくりに取り組めるよう環境を整備する。	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくりの推進

事業名	あしゆびプロジェクト事業(健康づくり課)	担当課名	健康づくり課
-----	----------------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)

あしゆびから健康な体づくりを目指し、全身を支える土台である足機能の重要性を周知するとともに、足を正しい状態に整え、正しい姿勢と動作で健康な体を維持するため、足の状態の可視化や健康教育により健康な体づくりにつなげる。

(事業概要等)

足の3D測定や足底圧測定により、足の状態を整えるための自分に合ったオーダーメイドインソールを作製し、普段の日常生活に取り入れ、足や全身の健康状態の変化をモニタリングする市民モニター事業を実施。令和5年度からは呼吸や姿勢にも着目した事業にブラッシュアップし取り組んでいく。
また、足の状態(足指や足底の筋力や足機能)を可視化するため、健康イベントや健診会場、健康教室であしゆび力測定を実施するとともに、足機能の重要性や取り組みについてリーフレット等を用いて周知する。

【事業費】

項目/年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	825	2,407	2,746	15,931	
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
あしゆび力測定者数	人	583	791	1,589	2,000
あしゆびプロジェクト市民モニター参加者	人	98	187	198	-
あしゆびプロジェクト事業参加者	人	-	-	-	50

(指標を設定できない理由)

(成果の概要)

令和2年度から令和4年度まで取り組んだ市民モニターでは、足を正しい状態に整えることが足や体の健康状態を改善させることが分かり、痛みの軽減やバランス能力の改善が図られた。
また、あしゆび力測定については、通常健康イベント、健診会場、健康教室だけでなく、広く市民イベントへの健康ブース出展により、目標を上回る成果が得られた。

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	様々なイベントで健康ブースを出展し、あしゆび力測定など健康状態の見える化を行うとともに、あしゆびプロジェクトのこれまでのあゆみをリーフレットにまとめ、周知を行った。
------------	------------------------------------------------------------------------------------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	あしゆびプロジェクトは、ライフステージごとに所管課がまたがっており、それぞれが取り組みをする中で、市としてプロジェクト全体の効果が分かりにくい。政策効果を示すため、ライフステージに応じた評価指標の設定と評価方法の検討が必要である。
-----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) あしゆびプロジェクトの政策効果を示すため、ライフステージごとの評価指標の設定と評価方法の検討を行う政策効果調査業務を実施する。
	改革・改善策等の具体的内容	市民モニターにより得られた効果を踏まえ、呼吸や姿勢にも着目し、体幹強化を見据えた事業に取り組むとともに、あしゆびプロジェクトに係る政策効果に関する調査業務を実施し、プロジェクト全体のロジックモデルの作成、政策効果を図るための評価指標、評価方法を設定し、効果検証のための評価モデルを設計する。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	アピアランスサポート事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	がん患者の療養生活に対する質の向上、がん治療と社会参加の両立及び経済的負担の軽減を図る。
(事業概要等)	がんの治療に伴う外見上の変化により、社会参加への不安や悩みを持つがん患者の方に、医療用ウィッグ及び乳房補正具の購入費用の1/2を助成(上限額2万円)する。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)			401	600	
うち市負担分(千円)			401	600	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
ウィッグ助成	人			23	
乳房補正具助成	人			1	
(指標を設定できない理由) 目標設定に適さない事業のため					
(成果の概要) がん患者に医療用ウィッグや乳房補正具の購入費用を助成することにより、がん治療による外見上の悩みに対して支援を行い、がん治療と社会参画の両立及び経済的負担の軽減を図ることができた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	
------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	ウィッグや乳房補正具は消耗品のため、定期的には新調する必要があるが、助成申請は1人につき生涯1度限りの助成のため、新調したウィッグや乳房補正具には助成制度が適用できない。
-----------------	---------------------------------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) がんに罹患された方の中には、抗がん剤や放射線治療の影響による脱毛や手術による乳房切除など、外見の変化により社会参画への不安を持ちつつ日常生活を送っている方が多く、支援が必要となるため、事業を継続し不安の軽減に努める必要がある。
改革・改善策等の具体的内容		

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	健康管理事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
市民の健康寿命の延伸及び生活の質の向上に向け、生活習慣病の予防に関する正しい知識の普及を図ることにより、「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、市民の健康の保持増進を目的に実施。
(事業概要等)
①子育て世代・働く世代を対象とした運動講座の実施。 ②生活習慣病の予防を目的とした健康づくり講座の実施。 ③電話・窓口等での健康相談による正しい知識の普及啓発。 ④いずみおおつ健康食育計画の推進。

【事業費】

項目/年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	1,098	870	1,094	2,106	
うち市負担分(千円)	697	584	728	1,746	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
健康教育受講者数	人	990	1,531	3,624	3,700
子育て世代・働く世代をターゲットにした運動講座(再掲)	人	50	90	104	240
健康状態の見える化測定者数	人	-	-	1,460	2,500
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
感染症対策として定期的な換気や消毒、定員数を減らし講座を行うことで、安心して受講できる環境を整えるとともに、集団けんしんの待ち時間を活用しビデオ教育を開始、子育て世代や働く世代を対象とした講座では、申し込みを容易とするため、ウェブ申込を導入することなどで、健康教育受講者数の目標値を達成することができた。また、地域に出向き、健康測定など体験型の講座や、必要な方には専門職による健康相談を実施するなど、自身の健康状態を見える化できる機会を増やし、健活アプリを活用しインセンティブを導入するなどにより、健康づくりの意識の向上や正しい知識の普及が図られた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を実施しての講座であることの周知や一部講座のオンライン申し込みを取り入れ、申し込みのしやすい環境を整えた。 ・令和4年7月からはアスマイルを活用し、健康づくりに関する普及啓発に努めた。 ・保健センターで実施する集団けんしんの待ち時間を活用し、令和3年度に作成した「大腸がん講演会」の動画を用いてビデオ教育を行なった。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	講座参加者や健康状態の見える化測定者が、日常生活の中で健康行動が継続できるような働きかけや取り組み、無関心層への働きかけ。
-----------------	---------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) 子育て世代の健康づくりは、次世代への健康づくりに影響を与える等重要な世代であり、健康の維持増進のため、参加しやすい環境づくりを行ない、引き続き健康づくりに関する知識の普及に努める。
	改革・改善策等の具体的内容	新規の健康教育受講者獲得として、地域のイベントへ積極的に出向き、健康情報の普及啓発だけでなく、健康状態の見える化を行なうことや、引き続きアスマイルを活用した健康づくりへのインセンティブの付与を行なうことで、市民のヘルスリテラシーの向上に努める。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくりの推進

事業名	健康力向上プロジェクト事業	担当課名	健康づくり課
-----	---------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくりの実現のため、病気になる前の未病予防対策等により様々な健康課題を改善し、心身の健康状態を高めるための健康状態の見える化や、ヘルスリテラシーを高め自分に合った健康づくりに取り組むことで、生活の質(QOL)の向上につなげることを目的とする。
(事業概要等)
【いずみおおつ健活推進事業】大阪府が実施する健康サポートアプリ「アスマイル」に市町村オプションサービスを導入し、市民の健康活動にインセンティブを付与することで、自分の健康に関心を持ち、健康づくりに取り組むきっかけづくりとする。 【健康力向上プロジェクト事業】健康づくりへの気づきのサポートや未病予防対策、健康状態の可視化を含む健康づくりへの多様な取り組みを実施するため、「泉大津市健康力向上プロジェクト事業補助金」を設け、官民連携・市民共創により健康課題の改善のための実証実験を行う。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	-	-	14,944	29,008	
うち市負担分(千円)	-	-	10,267	12,778	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
アスマイル登録者数(泉大津市会員)	人	-	-	2,912	4,400
健康力向上プロジェクト参加者(健康セルフチェック)	人	-	-	20	20
健康力向上プロジェクト参加者(更年期女性の健康課題)	人	-	-	97	100
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
アスマイル登録者数は、対象市民の5%を目標としていたが、4.65%と目標には届かなかつたものの、開始時1,471人から1,441人登録者数を増やし、ほぼ倍の登録者数となった。 健康力向上プロジェクト事業については、ほぼ定員通りの参加者数となり、健康セルフチェック参加者のうち生活習慣や日々の行動に変化があった割合が90%、更年期女性の健康課題改善に取り組んだ人のうちヘルスリテラシーの向上が自覚できた割合が67%で、ヘルスリテラシーの向上や未病予防意識の醸成につながったことが伺える。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	
------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	未病予防対策先進都市をめざし、市民のヘルスリテラシーの高まりや健康づくりを推進していく気運の醸成につながるよう、様々な場面での健康状態の見える化や多様な健康づくりに取り組むための新たな健康づくりの発信拠点を整えることが必要。
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) 市民のヘルスリテラシーの高まりや健康づくりを推進していく気運の醸成のため、更なる取り組みが必要。
改革・改善策等の具体的内容	令和5年4月1日に施行した泉大津市健康づくり推進条例を周知するため啓発リーフレット等の作成やシンポジウム開催、健康状態の見える化できる新たなツール(ベジチェック)の活用、新たな健康づくりの発信拠点の体制整備を段階的に進め、未病予防対策に取り組む。	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくりの推進

事業名	食育推進事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
平成21年3月に泉大津市食育推進計画、平成27年3月に第2次泉大津市食育推進計画、令和2年3月にいずみおおつ健康食育計画を策定。食の体験活動を通して食べることの楽しさや大切さを感じ、食への興味を育むとともに食の知識を身につけることで健康的な食生活を実践し、健康な体づくりをはじめ、健康づくりにつなげる。
(事業概要等)
体験活動: わくわく食育体験(栽培体験、調理体験など食の体験活動に親子で取り組む) はじめてクッキング～防災編～(調理の基礎を学ぶとともに災害時の備蓄食品等について考える) 啓発活動: 食育展1回/年、学校園所への情報発信(食育ひろば)、乳幼児健診での啓発(冊子配付) 統一献立給食: 市内就学前施設及び小中学校での給食を利用し、統一メニューを実施 食のボランティア育成: 食と栄養・健康づくり教室(全9回講座)の実施

【事業費】

項目/年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	575	574	505	779	
うち市負担分(千円)	532	526	431	617	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
わくわく食育体験参加者	人	214	205	145	100
食育体験活動(親子クッキング参加者)	人	-	-	50	60
食育体験活動(規則正しい食生活プログラム参加者)	人	19	18	20	25
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
わくわく食育体験については、土袋を使つての栽培活動が3年目に入ったこともあり、参加者が減少傾向にあったが、参加者からは、野菜の栽培やクッキングを通して子どもの食への興味が育まれ、食べることに興味を持った、家族との会話が增えたなど体験活動を通して変化が見られたとの意見が多かった。R5年度は、農地利用の再開を予定しており、参加枠を縮小することから目標値は減少となる。また、統一献立給食については、市内就学前施設及び小中学校27施設で継続して実施できており、食育だよりの配布とメニューの定番化により食育の推進が図られた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	食育体験活動については、令和2年度、3年度と調理体験に取り組めていなかったが、令和4年度は感染対策を講じ、実施することができた。 統一献立については、2つ目のメニューを令和5年度から実施できるよう、市内栄養業務担当者と新メニューの検討を行った。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	集団での食育体験活動が実施できなかった。 調理実習では、感染対策を優先したため、参加人数の縮小や実施時間を短縮することとなった。
-----------------	---------------------------------------------------------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) 基本的感染対策を考慮しながら集団での体験活動の再開や、ベジチェックによる食生活の見える化などを加えた食の体験活動を実施する。
改革・改善策等の具体的内容	わくわく食育体験では、市内コミュニティー農園を活用し、植え付けや収穫などの農地体験を実施するほか、食生活の見える化を含むライフステージに応じた食の体験活動の実施や免疫力向上のための腸活講座(みそ作り体験)など未病予防の観点からも食育推進に取り組む。	